



令和6年2月18日鳥取県女子神職会結成40周年記念奉告祭
於大山町「賀茂神社」



ご挨拶

賀茂神社

権禰宜 金田知子

まずは令和六年元日に発生した能登半島地震において被災された皆様にお見舞いを申し上げます。平穏な日々が一日も早く訪れますよう心からお祈り申し上げます。

さて、令和五年七月の総会において会長の任に就くことになりました。私事ですが、奉職して間もなく約十年、鳥取県を離れたことがあり、帰鳥後も神社奉仕は裏方を主にしておりましたので、果たして会長を引き受けてよいものか迷い悩みました。ですが、欠席期間が長かった私を温かく迎えてくださった会員の皆様に対して少しでも恩を返せる機会となるのであればと、自身の力不足は承知の上でバトンを受け取ることにいたしました。チームとして一緒に走ってくださる会員の皆様と力を合わせ、会を更に前進させていきたいと思っております。どうぞよろしくお願

いたします。

この度、当会は結成四十周年を迎え、二月には記念奉告祭を執り行いました。今日に至るまでお力添えをいただきました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。また、結成の初期より永きにわたり役職を務めてこられた前会長の福田様に心から感謝を申し上げます。これからも会を支えていただきますようお願いいたします。

現代は社会構造や価値観に急激な変化が起きています。その中であって女子神職は、どのように社会貢献していけるのか常に考えていかねばと思えます。今後とも関係各機関・氏子崇敬者の皆様には当会へより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



昇龍鳳舞

照國神社 宮司 福田恭子

令和五年七月、伯耆古代の丘公園のそばの「ゆめ温泉白鳳の里」において、令和五年度本会の総会が開催されました。この度は、役員改選時で、私は、会長職を新会長金田知子様は無事バトンを渡しました。

一度、昭和六十三年から二期、会長を務めましたので、平成二十三年は二度目の会長を受けたこととなります。顧みますと、全国女子神職協議会への加入、会報「うらやす」の創刊、創立十周年で初めて周年事業を実施、その後、三十周年、



三十五周年とさせていたが、第二十八回中国地区女子神職研修会を令和二年に開催すれば、私の努めは終了と思っておりました。が、令和二年二月、世界がコロナ禍に見舞われて人々の往来がままならなくなりました。研修会を二年間延期することになり、役員も保留。令和四年六月、規模を縮小しながらも「第二十八回中国地区女子神職研修会」を終え、私の役目も終えることができました。

この間、本県の神社界の皆様、殊に女子神職の皆様に支えていただき有難うございました。そして、全国女子神職協議会の役員様、中国地区の会長様方と親しくお付き合いをいただいていた皆さんの出会いや経験ができました。

末筆になりますが、二度の会長職を私の背中を押して励まし、導いてくださった故岸本榮宮司様(令和五年八月行年百四歳にて帰幽)のお陰と感謝申し上げます。

金田新会長様をはじめ役員様のご活躍と本会の龍昇鳳舞をお祈りします。もちろん、お手伝いをしますよ。

回顧

槻下神社 池本令子

昭和三十七年(十九歳の時)、神職就任し六十年間にわたり何の功績を残すことなく辞任を決意いたしました。後悔はございません。

当時、奉仕神社は宮司(祖父)亡き後は叔父が兼務しておりました。(父は戦死、世襲社家の継承が家族や周囲の人たちの願いであり私は白己判断もできないまま一年間の修行(養成所)へ。(老いた祖母と母を残して)女子神職はまだ珍しい時代で養成所での生活は二十一人中紅一点、本当に過酷な環境でした。

「よく辛抱したな」と先生に言われた時密かに涙しました。泣き言一つ言うこと無く、意地と頑張りで資格を



取得して三十九年には宮司に就任しました。しかし神職とは名ほど生活のため外での職に勤め励む日々でした。神職会は男の世界、女子で若い私は進んで参加することができませんでした。教養も無く経験も少ない私を叱咤励まし指導してくれる宮司もなく、悩み苦しむ事はかりでした。成長するまでの数年間は助働いたでいる神職様・総代様にはずいぶん助けられました。

本県に女子神職会が設立されてやっとな話す場所ができた救われた思いがいたしました。平成五年に会長と言う大役を担うことになり九年間何の功績も残すことはできませんでしたが多くの事を経験して学ぶ事ができました。力不足の私を助けてくださった会員の皆様・関係者の方々に感謝いたしております。現在の女子神職会は著しい発展を遂げ充実して参りました。神職として無くてはならない存在となっております。県内では会員も増え宮司として役員として期待されて活躍している会員が多々います。益々の発展とご活躍をお祈ります。

世襲社家の継承・初志の目標を成し遂げました。そして女子神職の草分け的存在として、標として前途を開く手本となれたかな?

私が神職となった目的をほぼ達成して退職した今、安堵と感謝と幸せでいっぱいです。

宮永満枝様を忍んで

野上荘神社 宮司 花田敏子

鳥取県女子神職会が立ち上がった（昭和五十八年）間も無い昭和六十年（六十二年迄）、第二代会長としてご指導いただきました宮永満枝様が、昨年九月に亡くなられました。宮永様が会長をされていた当時、私は子育て奮闘中で会合を欠席することも多く、お会いする機会は数えるほどしか無かったように思いますが、はつきりとした口調でお話しされる澁刺としたお姿が、印象に残っています。訃報



を聞き、会報「うらやす」を紐解いてみました。写真にお姿は無く（記録写真を撮る事が無かったのかも知れませんが）会長を引かれて以来、会に参加される事が少なくなっていたのでしようか。後にお嫁さんが入会されて、様子を聞くこともありましたが、私の中の宮永さんはあの頃のままでしたから、この度しみじみと月日の流れを感じました。

社家を護る為に資格を取り、且つ女子神職の資質向上に尽力された先輩方との別れは辛く、八月に大先輩の岸本様をお見送りしたばかりでしたので、感慨深いものがありました。

先達の思いを受け継いで四十年。会員も増えて、二月に奉告祭を斎行し、五月に記念式典を開催する運びとなりました。これから先も先輩方の思いを忘れず、研鑽を重ねてまいります。どうぞ、見守っててください。

ここにありし日の宮永満枝様を偲び、会の為にご尽力いただきましたお礼申し上げますと共に、御霊の安からん事を心よりお祈り申し上げます。

中五研に参加して

鳥取大神宮 権禰宜 大澤かおり

令和五年六月七日（八日）、岡山県岡山市に於いて開催され、鳥取県からは五名参加しました。

【一日目】

◆開講式

◆第一講

「近年の国内外情勢と神社組織の意義」

講師 岡山県神社庁副庁長

物部 明德先生



第二講

「式内社が八つある村」

～現代に生きる古代・中世の宗教的世界～

講師 蒜山郷土博物館館長

前原 茂雄先生



◆懇親会

【二日目】

◆岡山県立美術館見学

◆正式参拝「岡山県護国神社」

◆閉講式

岸本榮さんを偲んで

甘露神社 宮司 山中庸子

いつまでも生きてくれると思っていた岸本榮さん、去る令和五年八月十一日に一〇四歳で旅立たれた。お疲れさまでした。そして大変お世話になりましたと感謝でいっぱいです。

初めて出逢ったのは、本会が十周年を迎える春でした。目を輝かせて声を掛けてくださった事は、三十年経った今でも鮮明に覚えています。いつも励まし



や元気をいただきました。鳥取市を一望できる賀露のご自宅を伺う度に、これが私の日課とお抹茶をいただくのがホッと寛ぐひとときでした。女子神職で色々な所に行ったり、節目の企画など小学校教員をさせていただきだけあっての頭の回転の良さ、若い人には負けない行動力は圧巻でした。

ある時、列車で私の実家に来られ女子神職の歌を書いたので、父に作曲を依頼された事は驚きました。長年の思いあふれる素敵な歌詞です。結成十五年記念奉告祭に披露され今も歌い継がれています。

平成二十一年、神社本庁表彰を受けられた記念に「大正・昭和・平成を生かされて」という手書きで手作りの自叙伝をいただきました。

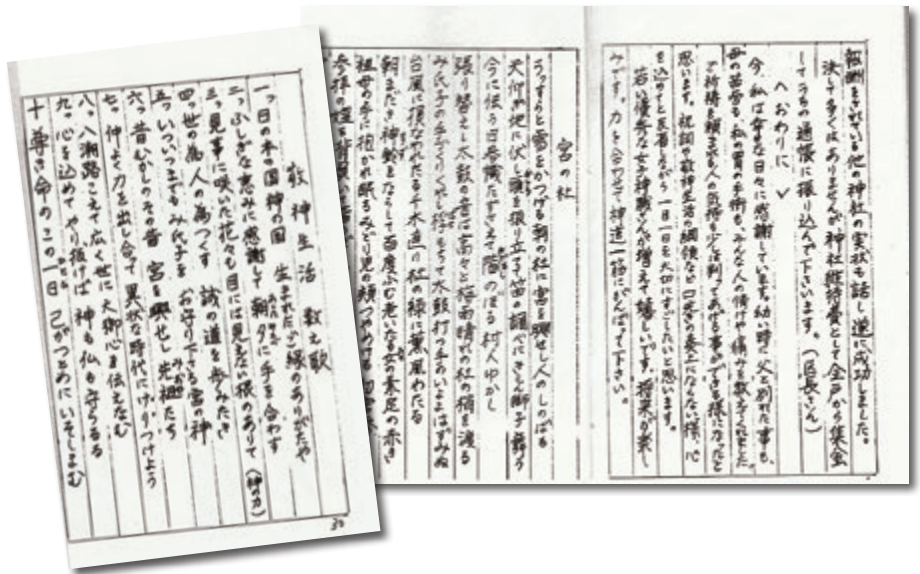
改めて読み返し：大正九年、農家の三女として生まれ、父上を早くに亡くし、女手一つ農作業などで働く母上のもと、家事を手伝いながら、友達ともよく遊び、よく勉強し小学校教師になられた。

縁あって社家に嫁がれ、宮司

をされていたご主人が急死。庁長の勧めで松江や山口にて資格を取られ八社の宮司に就任。「子どもおみくじ」や社報「うじがみさま」を手書きし、絵の具で色付けされていた事も思い出して、何でも手作りされてきました。

社務所の改築や、わかとり団体の会場近くの神社を奉務されご苦労の末、無事全うされた事や「荒神さん」や「お富女郎(狐)の祟り？」など神

さまを大切にされる経験談。航さんが禰宜に就任された時の嬉しそうな笑顔も思い出しました。他にも数え歌や短歌色々教えてもらいました。この冊子とともに思い出は宝物です。



榮さんは神職に成るべくして成った方！女子神職の礎であり、道しるべでした。いつも見守ってくださいと思っています。

有難うございました。

古文書に親しむに参加して

松崎神社 宮司 渡邊香里

令和五年五月十八日に鳥取市の長田神社社務所にて研修会「古文書に親しむ」が開催されました。今回の講師も旧家の襖などから様々な古文書を発見しておられる大澤邦彦宮司様をお願いいたしました。

今回は女子神職会ということで、宮司様所蔵の古文書から、女性を書いた文などを選別し、教材としてご用意してくださいました。それを読み進める中で江戸時代の女性も現代の自分たちと変わらない生活をしてきたことを伺い知ることができ、とても楽しい講義となりました。また、前回と同様に宮司様が発見された



古文書をたくさんお持ちいただき、その実物を拝見させていただきました。私は実際の古文書を手に取りませんので、紙質が分かるほど間近で古文書を見ることができとても嬉しかったです。今後も古文書に触れる機会を持ち、いつかは自力で読めるようになりたいと思います。

令和4年度鳥取県女子神職会活動報告

【令和四年】

七月二日(土)

文化財見学並びに中国地区研修会反省会

鳥取市国安 十一名

〔有隣荘〕

七月二日(土)

鳥取県女子神職会 定例総会

鳥取市上町 十一名

〔鳥取県神社庁〕

【令和五年】

二月一八日(土)

新年神社参拝

米子市車尾 十三名

〔貴布禰神社〕

米子市車尾 十二名

〔和食sarden 琥珀月〕

琴浦町美好 四名

〔福田邸〕

五月一八日(木)

研修会「古文書に親しむ」

鳥取市東町 六名

講師 大澤邦彦先生

〔長田神社社務所〕

六月七日(水)～八日(木)

第二十九回中国地区女子神職研修会

岡山県岡山市 五名

〔岡山国際ホテル〕

湯梨浜町南谷 六名

〔Cafe ippo〕

六月会報「うらやす」三十一号発行(予定)

*中止した事業

【令和四年】

九月

研修会「古文書に親しむ」

鳥取市上町

講師 大澤邦彦先生

〔鳥取県神社庁〕

鳥取市上町

〔鳥取県神社庁〕

九月

神社庁清掃奉仕

新入会員紹介

上津守神社 禰宜

櫃田圭子さん
ひつだけいこ



米子市淀江町上津守神社の禰宜に就任いたしました櫃田圭子です。

田圭子と申します。現在、妹とともに奉仕しておりますが、何事においても試行錯誤で、反省することはばかりです。

一方、子どものごころから知っている氏子の方々が、私たち姉妹が奉仕するのを温かく見守ってくださることを非常にありがたく感じるとともに、地域にとつてのお宮や神事の大切さが、実感を伴って理解できるようになってきました。

資格取得から現在に至るまで、多くの方々にご指導いただき、支えていただいております。この度「女子神職会」の仲間に入れていただき、心強く思っております。様々な面において御指導いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

上津守神社 権禰宜

安達真希子さん
あだちまきこ



米子市淀江町上津守神社の権禰宜に就任いたしました安達真希子と申します。

宮司である父の元に生まれてきたものの神職という立場で奉仕することに関しては全くの素人で、自分の至らなさを痛感することはばかりです。そんな中、すぐに相談できる先輩神職の方々が周りにいてくださること、二社の氏子の皆様が私たち姉妹のことを温かく受け入れてくださることを心から有難く感じています。このたび女子神職会の一員として入れていただけることをとても心強く思っています。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

宇倍神社 権禰宜

旗野真依さん
はたのまゐ



鳥取市国府町宇倍神社権禰宜の旗野真依と申します。

國學院大學神道文化学部卒であり、学生時代は雅楽のサークルに所属し筆築を担当しておりました。東京出身であり実家も神社ではない一般家庭の生まれですが、ご縁ありまして鳥取にてご奉仕させていただきます。未熟者ゆえ、ご迷惑をおかけすることも多々あるうかと存じますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



編集後記

鳥取県女子神職会の四十年にあたり、会員さんにも協力していただいて過去の写真を集めました。

創会初期と思われる写真に写る会員さんはお会いした事がない方が殆どでしたが、その写真をみてみると創会当時の情熱を今の自分達は受け継いでいるのかなと考えてしています。

雑事に追われている間に気づけば一日が終わってしまいが、「また今度しよう」が積み重なっていく日々ですが、それは先輩方も同じであったことでしょう。その中でも女子神職としての自分のあり方を真剣に考え行動に移してこられたからこそ、今日の女子神職会があるのだと思います。

その意識の高さを保つことを自分にもできるんだと自分に思い込ませ、思いついたら即行動に移せるよう今後も頑張っていきたいと思えます。

(渡邊)